

# 中学生から高校1年生への 自立を促す入学直後の指導

新課程生  
受け入れに向けて

## 時期の特徴

1年生は5月の連休前後までクラス内での人間関係も固まっておらず、個々の生徒の高校生活に対するモチベーションにも差がある。

## 指導のポイント

高校生活がどのようなものか模索している段階ゆえに、担任の指導は浸透しやすい。中学校との違いを理解させ、高校での生活リズムを早期につくらせたい。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

## 目的別データ活用

### 1 生徒の内面を 含めた 実態把握が カギに

……→ 図1

◎2012年度は、高校でも数学・理科が新課程の先行実施となる。そのため、入学生の学力や学習意欲の変化を早期に把握することが、一層重要となってくる。そこで学力面に関しては、高校入試の結果や入学直後の「スタディーサポート」「進路マップ」などによる把握・分析を行う。更に図1を用いて、入学直後の生徒の高校生活に対するモチベーションにまで踏み込んだ実態把握も重視したい。4、5月の面談を図1を基に掘り下げることで、生徒の内面により深く追っていくように改善し、高校生活をスムーズに軌道に乗せたい。

### 2 クラスの自立を 促すクラス目標 づくりのポイント を共有

……→ 図2

◎生徒は、集団の中での自分の役割を認識し、それを果たしていく過程で自立していく。クラスを集団として引き上げるために共通の目標を掲げることは、高校生としての自立を促す意味で重要だ。目標は、レベルもさまざまで、担任が決める場合もあれば、生徒たちの話し合いで決まる場合もあるだろう。1年間のクラスの在り方を決める大切な取り組みとして、これまでどのような目標設定が行われてきたか、図2のようにベテラン教師の経験を共有し、学年団で目線合わせしておくとも良いだろう。一人の自立だけでなく、クラスとしての自立を促す目標を設定したい。

## 対教師への データ

生徒把握とクラスとしての自立を軸に  
導入期指導を構築する

## データを用いた指導の流れ

### STEP 1

◎入学生のモチベーション把握アンケート(図1)を実施し、入学生の意欲を把握する

### STEP 2

◎図1を基に面談を行い、各生徒のモチベーションや気質を掘り下げて把握する

### STEP 3

◎ベテラン教師が中心となって図2に記入し、それを参考に定めたクラス目標やクラスづくりの方針を学年団で共有する

### STEP 4

◎5月の連休前後に面談を行い、クラス目標や自身の目標への意識を担任が確認し、達成のための取り組みを継続させる

図1 入学生のモチベーション把握アンケートと面談への生かし方

●高校で挑戦したいこと、やり抜きたいことは？

●高校卒業後の進路目標(行きたい大学・学部など)は？

●平日の放課後の過ごし方は？ 計画と現状を記入しなさい

16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00	1:00

- 高校生活に対するモチベーションが高い時点で、3年間の目標を明文化させる。第1志望ではなかった生徒には特に注意を払い、高校生活の頑張り次第で大きな成果が出せることを面談で伝えておきたい。
- 生徒の中にはまだ具体的な目標が書けない者もいるので、進路の目標を探すことも、高校生活の大切なテーマであることを面談で話したい。また、書ける生徒にも、幅広く可能性を探っていく必要があることを伝える。
- 実際に高校生活が始まって、当初考えていた通りの生活が送れているか、計画に無理があるならどのように変更すればよいかを面談で確認し、修正させる。計画を守れないまま過ごすことは避けさせたい。

図2 入学生を高校生にするために学年団で共有する「クラスの目標づくりのポイント」

ポイント	理由	これまでのクラス目標の例
クラス担任として「これだけは譲れない」というこだわりを、クラス目標などで生徒に示す	生徒が自立した一人の人間として自己決定できるようになるには、周囲の大人が生徒と対等な「一人の人間」として自らの意思やこだわりを示すことが有効だ。「担任はこういう人だ」と生徒が理解できるようなこだわりを示す。	「始業時などの挨拶は必ず相手の顔を見て、声を出して行う。出来ない人がいれば何度でもやり直す」(A先生) 「マジメなことを笑わない。一生懸命である仲間を声に出して応援する」(B先生)
達成に向けての努力を褒めることが出来るようなクラス目標を設定する	目標はただ掲げるだけではすぐに形骸化してしまう。目標に向けての努力を担任が日々評価できるような目標とする。やって当たり前ではなく、一定の努力が必要とされる目標を設定することで成長を褒め、更に意欲を高められる。	「授業開始1分前には着席し、静かに先生を待つ」(C先生) 「行事に全力で取り組み、学年1位を1つでもとる」(D先生)
生徒によっては「そんなに大切なことなのだろうか」と思うような担任のこだわりをあえて提示する	目標を「ルールだから」と守る生徒がいる一方でどうしても守れない生徒も出てくる。生徒による反応の違い、個人差を認めた上で、なぜ大切なのか、どうしたら守れるようになるかをクラスで考えることで集団が一つにまとまる。	「後ろのロッカーの上には私物を置かない」(E先生) 「床に、カバンや教科書などの勉強道具を置かない」(F先生)



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。  
<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

小中学校と高校での教師の違いを理解させる

小中学校の教師は、児童・生徒の前で自分のことを「先生」と呼ぶことが多いようだ。一方、高校教師は一人称に「私」を用いることが多い。これは一人の人間としての言葉を伝えているということで、大人と子どもという関係だけではなく、生徒を一人前として扱っている面があるということだ。教師と生徒の関係性も高校からは変わることを意識して生徒に接したい。

担任としてのこだわりをクラスづくりに利用する

クラス運営で担任が特定の決まり事にこだわりを持ち、HRで繰り返し発信するうちに、生徒によってさまざまな反応が始める。担任の言動に対する生徒の率直な反応は、実は生徒たちにとって、お互いの価値観を確かめ合う材料にもなる。導入期では特に担任のこだわりをクラスの雰囲気づくりに活用すべく、教師は自分のスタンスを明確に打ち出したい。

高校進学を目的を思い出させ、モチベーションを高める

入学したことで安心してしまっている生徒や、不本意な入学で目標が持っていない生徒もいる。高校生活の目標が見えない生徒には、中学生の頃の「高校入学の目的」を振り返らせる。本来の目的を思い出し、足下から目標を築かせることで、今どのように行動すればよいかを具体的に見えてくる。また、その実現のために担任にどんな支援を望むのか、生徒に考えさせ、引き出したい。

## 目的別データ活用

### 1 「高校生の保護者」としての こだわりを持ってもらう

……→ 図3

◎図3のシートにあらかじめ生徒と担任の目標、こだわりを記入した上で、生徒経由で保護者に配布する。保護者に生徒と担任の考えを知ってもらい、今後のサポートをお願いすることが第一の目標だが、もう一つの狙いは保護者にも「高校生の保護者になった今、これだけは守っていきたい」というこだわりを考えて、シートを通じて宣言してもらうことだ。それぞれの約束事を生徒、保護者、学校のコミュニケーションの材料としていくのだ。保護者とはなかなか対面する機会がないからこそ、互いの考えを伝え合い、関係を強固にしていきたい。

### 2 学校との距離感を 伝え、「高校生の保護者像」の 理解を促す

……→ 図4

◎保護者の高校に対するニーズは近年ますます多様化しているが、その中で「どんな要望を、どのような形で伝えたらよいのか」が分からず、高校とのあるべき距離感に悩む保護者も少なくない。保護者の不安を軽減し、子どもを中心とした良好な関係を築くための材料として、図4のように先輩保護者から寄せられた相談に学校がどのように対応したかをモデルケースとして伝えたい。同じ立場である保護者が抱える不安や悩みを知ることで、高校生の保護者としての心の準備も出来るはずだ。

対保護者  
への  
データ

「高校生の保護者」としてのあり方を  
目標を通じた交流と事例で理解を促す

## データ活用の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
◎図3に生徒、クラス、担任が決めた目標・こだわりを記入した上で、生徒から保護者に渡す	◎保護者に図3の「高校生の保護者としてのこだわり」を記入してもらい、担任が回収。今後のコミュニケーションの材料とする	◎コピーした図3を保護者に返却し、保管してもらう。保護者懇談や学級通信などで話題にし、関係性を深めていく	◎2年生～卒業生の保護者に協力を依頼し、図4を作成。学校との距離感なども示して、保護者と教師の理想的な関係性を構築する

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！ 右のウェブサイトをご覧ください。

- 2007年6月号「1年生1学期の保護者に対する意識付け」
- 2008年4月号「1年生を高校生にする意識付け」
- 2009年4月号「高校生としての学習習慣を新入生に定着させる」
- 2011年4月号「1年生初めの定期考査前後の意識付け」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用  クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→  
生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

加工可能な資料が  
ダウンロードできます!

生徒指導・  
進路指導  
ツール集

ウェブサイトから  
ダウンロード!

図3 高校生の保護者となるための「こだわり」づくりシート



高校生活のスタートにあたって、子ども、クラス、担任で目標を決めます。高校生の保護者としてこの一年どんなふうに子どもと接したいか、この機会に目標を決めてみませんか？

担任がコピーしてお戻ししますので、1年間見えるところに貼ってください

●子ども自身が決めた目標・こだわり

●担任自身の目標・クラス運営でのこだわり

●クラス全体で決めた目標

●高校生の保護者としてのこだわり(保護者の方がご記入ください)

例)・夕食は決まった時間に食べる ・風呂掃除は子どもにやらせよう  
・お互いの1日の出来事を話す など

図4 学校との関係性を伝える先輩保護者の振り返りシート



テーマ・出来事	先輩保護者の振り返り(子どもが高1時の悩みや不安)	当時の学校からの回答
毎日の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>塾に行かせた方がよいのか迷った。</li> <li>なかなか机に向かわず、テレビの前でダラダラしている子どもにイライラしてしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの課題と毎日の予習復習で十分です。本校では、授業中心の学習で入試学力も身に付きます。</li> <li>「勉強しなさい!」では子どもは勉強しません。テレビを消すなど、学習できる環境をつくりましょう。</li> </ul>
定期テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校では考えられなかったような低い成績をとってしまい、子どもと共に落ち込んでしまった。</li> <li>範囲が広く、テスト勉強の負担も大きいようで、本人が疲弊し、自信を失っているようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校では同じような成績の生徒が集まっていますが、まだ差は大きくなく、ばん回は十分可能です。</li> <li>短時間の学習では間に合いません。日々の予習復習の継続がカギになることを家庭でも伝えてください。</li> </ul>
部活動との両立	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動を終えて帰宅すると疲れて全く勉強が出来ないようだが大丈夫かと悩んだ。</li> <li>運動部は終了時間が遅くなり、勉強の時間が少なく、大学入試には不利なのではないかと不安になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力がついていない高1時はしかたがない部分もありますが、部活動の顧問にも状況を聞いてみます。</li> <li>本校では運動部からも難関大に多数合格しています。部活動で培った集中力が武器になります。</li> </ul>
文化祭・体育祭	<ul style="list-style-type: none"> <li>何日も学校に残って準備をしているが、そんなに大変なものなのかと理解に苦しんだ。</li> <li>文化祭準備の方針を巡ってクラスメートと意見が合わず、本人も悩んでいるようだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭のクラス発表は本校の伝統であり、生徒が没頭する行事です。ぜひ応援してあげてください。</li> <li>クラスでの人間関係の構築も高校での学びの一つですが、担任として話を聞き、支援していきます。</li> </ul>



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。  
<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

「保護者にしか出来ないこと」をしっかりと伝えていく

保護者として子どもとどうかかわるかは、最終的にはそれぞれの家庭の価値観による。だが、食事や睡眠など、規則正しい生活習慣を維持することで子どもの健康を守れるのは保護者だけである。「生活習慣の管理、助言は自分の役目」と改めて保護者自身が役割を認識することが、生徒の学校生活の充実につながっていく。

不満をためさせない配慮が生徒のために必要

保護者が学校や教師について否定的な言葉を言うようになると、生徒は学校を信頼できなくなり、結果的に生徒本人にとって大きな不利益となってしまふ。保護者には、学校や教師への不安や不満は子どもにではなく、学校に直接伝えることを求めたい。保護者会で進路指導部などから「担任に言いにくい時はこちらに連絡を」と案内し、学校とのパイプを複数持ってもらうこともポイントだ。

先輩保護者との懇談で高校生活への理解を深める

保護者にとって他の保護者の体験は、子どもや学校との関係を考える上で非常に参考になる。だが、近年は学区の撤廃などが進み、地域単位での保護者の関係性も希薄になっている。保護者会や三者面談の日程を1・2年生でそろえ、1年生の保護者が2年生の先輩保護者と直接話が出来るような場を学校が率先してつくっていくことなどもより重要になるだろう。